

第4回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会 会議録

会 議 名	第4回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会会議				
日 時	令和4年5月19日（木）午後1時30分～午後4時00分				
場 所	橋本市教育文化会館3階第3研修室				
出席者	委 員 (敬称略)	堀内 秀雄 田村 亜美 佐藤 陽子 上田 ひと美 中谷 維志	乾 幸八 井瀬 千恵子 今田 実 岸田 昌章 東 美樹	平家 利也 玉井 勝代 小原 秀紀 戸島 浩子 平田 敬二	【出席委員：15名】
欠席者	委 員 (敬称略)	前田 陽一郎	森田 知世子	是枝 美海	【欠席委員：3名】
事 務 局		総合政策部長 土井 加奈子 政策企画課長 中岡 勝則 政策企画課長代理兼地域振興係長 前川 朋久 地域振興係主任 嶋本 英明 地域振興係主査 上原 慎太郎			
次 第	1. 開会 2. 報告 ① 広報4月号記事 ② 協働に関する職員アンケート結果 ③ はぐくむ条例の改正 3. 議事 ① 第2期はぐくむ委員の任期変更 ② スケジュールの確認 ③ 提言 4. その他 5. 閉会				
資 料	資料1	広報4月号記事			
	資料2	協働に関する職員アンケート結果			
	資料3	スケジュールの確認			

1. 開会

事務局より、橋本市の自治と協働をはぐくむ委員（以下、「委員」とする。）及び事務局員の変更報告

【委員提起】

- ・橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会（以下、「委員会」とする。）の目的や意義について確認したい。
- 委員会は橋本市の自治と協働をはぐくむ条例（以下、「条例」とする。）の実効性の検証及び見直しを行うために設置されている。委員会活動で条例や協働の周知活動に重きが置かれている理由は、第一期委員会で協働やまちづくりの考え方が市内に普及していない中、条例の検証及び見直しを行うことは困難であるとの意見があったため。事務局は、第二期委員会活動の中で条例の実効性の検証に取り組んでいきたいと考えている。
- ・委員会からの提言に対する行政の活動について説明いただきたい。
- 第一期提言書に記載されたものでいえば、年 1 回の広報記事はすでに実施済み。サポーター交流会や職員研修は各グループ（以下、「G」とする。）で実施に向けて取り組んでいる。提案一つ一つの実施の有無等の整理は行っていないが、実現可能なものから取り組んでいる。

2. 報告

① 広報 4 月号記事

広報記事を作成した協働のまちづくり G 東委員より報告。

- ・作成スケジュールについて
- ・条例、委員会の周知を図ることを目的とし、とっつきやすく、温かみのある紙面を目指した。Q&A は市民が自分事として、身近な問題として捉えてもらえるように掲載した。
- ・今回はこれまでの活動等、基本的な事項を掲載したため、地域運営組織については記載しなかった。今後の活動や地域運営組織の掲載については次回担当 G の検討事項としてもらいたい。

【委員感想、意見】

- ・広報の反響は事務局に寄せられたか。

→事務局へ電話等で直接受けた意見はなかったが、記事を見て橋本市の自治と協働をはぐくむサポーター（以下、「サポーター」とする。）制度に登録したとみられる方が3名ほどいた。

② 協働に関する職員アンケート結果

事務局より報告

- ・市HPに掲載済
- ・アンケートの対象を今年度から市職員全員に拡大した。

【委員質問、意見】

- ・アンケートの回答率が低すぎる。

→職員に回答を促すための取り組みを行う必要がある。特に回答が低い部局については、部局内での声掛けを依頼したい。年度末は多忙であるとの意見があったため、今年度は時期を改めたい。

- ・昨年度はシステムに接続できる環境にある職員を対象としたと伺ったが、今年度は全職員対象に紙ベースで実施したのか。

→基本はシステムでの回答だが、システムに接続でない職員は紙での回答とした。

- ・アンケートの基本評価は事務局提案に載せていただきたい。
- ・協働の基本指針について、事務局はどう考えているのか

→10年以上前に作成された指針で、見直しができていないため、内容を更新する必要性を感じている。

- ・職員の回答率が16年目以降から低下しているが、なぜか。

→記載の回答率は全体に占める割合で、その年代に占める割合ではない。そのため職員数が多い年代の回答率が高くなっている。

③ はぐくむ条例の改正

事務局より報告

- ・はぐくむ条例第10条地域運営組織の設立要件に関連する附則を2年延伸し、5年とした。この期限は地域運営組織が全市に設立される期限ではなく、要件の設定期限を延伸するもの。

④ 地域懇談会

事務局より説明

- ・希望のあった地区で条例や協働についての話を行っている。すでに3件実施し、今後3件予定している。

3. 議事

① 第二期はぐくむ委員の任期変更

事務局より説明

- ・年度途中から始まっている委員の任期を変更するもの。第二期委員の任期を令和5年3月末とし、第三期開始を令和5年4月1日としたい。

【委員質問、意見】

- ・文書法規上は問題ないか。
→委員の任期は橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会条例で定めているが、開始時期は記載されていない。委員会で委員の承認を得られれば、任期の変更は可能。
- ・市内委員会のすべて年度に合わせた任期に変更するのか。
→変更は本委員会のみ。市全体の取り組みではない。
- ・提言書の提出で任期終了、次期委員は提言書の確認から始まると考えてよいか。
→それで問題ない。本委員会はメンバーが大きく変わらないので、提言書の確認から始まっても問題はないと考えている。
- ・年度末に市民委員の募集を行うことは、事務局的に問題ないのか。
→広報はしもと1月号に記事を掲載し新規委員を募集する。スケジュールの確認を行ったが、問題ない。
- ・団体から選出された委員は途中交代になるが問題ないか。
→団体委員は団体の長への充て職ではなく、事務局から団体へ依頼し、委員委嘱を行っているため問題はない。

【まとめ】

本議事は全会一致をもって、承認された。

② スケジュールの確認

事務局より説明後、G 協議

- ・次回広報記事は令和5年5月掲載で、提言書の内容を市民へ報告する機会とする。
- ・こども向けパンフレットの素案を第二期で作成し、印刷は第三期委員会に任せてもよい。ページ数は最大でA4の8P程度。
- ・年度末は忙しくなるため、職員研修の実施時期を当初予定より早める。
- ・職員研修後にアンケートの実施を行うことで回答率の増加を図る。
- ・サポーター交流会は実施の有無も含めて担当Gで検討する。

- ・第3回委員会会議で役割分担した事業を委員会全体で企画を報告して進めることの再確認。

③ 提言

事務局より説明後、G 協議

- ・委員から提言の形式を提言書及び懇談会から、報告会のような市民にも公開されるようなものはできないかと相談があった。
- ・条例の検証を行うための指標の設定を今年度で作成したい。指標は各 G で出した項目をまとめ、委員会全体として1つ評価シートを作成してはどうか。
- ・正副委員長及び各 G 2 名で構成する提言書作成のための部会を設置したい。

② スケジュールの確認、③ 提言 G 協議内容報告

【情報共有 G 報告】

- ・事務局から提案のあった提言の形式、検証シート、及び提言の部会について、すべて賛同する。
- ・すこやか橋本まなびの日のブース出展は基礎となる部分は従来どおりとし、来場者の目的が景品にならないよう、ブース内を回るスタンプラリーを検討している。
- ・広報原稿は提言内容を含めて作成するが、小中学生や知り合いにイラストを描いてもらい、協働作成できれば良いと考えている。
- ・サポーターを増やすため、委員所属の団体等で声をかけるなど、委員から市民に対して直接サポーター制度の紹介を行いたい。職員アンケートにも記載があったが、SNS での条例関係の情報発信を提案していきたい。
- ・協働の実践例を知りたいとの声が市民からあるため、市民目線での情報発信のため委員にて実践例の取材をしたい。

【報告 G への委員意見等】

- ・橋本市協働の基本指針に協働の具体例が記載されている。具体例を職員目線から市民目線に変えるなど協働のまちづくり G は指針の見直しのポイントを提言できたらと考えている。

→情報共有 G で協働の実践例の取材については、協働のまちづくり G と協力できるとの意見があった。

【協働のまちづくり G 報告】

- ・職員研修の後にアンケートを実施し、アンケートを提言書にも反映させたい。職員研修の時期を10月か11月ごろに前倒しし、アンケートは12月か1月に実施したい。アンケートの目的を明確にし、そこに合うような研修を考えたい。

- ・橋本市協働の基本指針の見直しのポイントを市民目線で提案する。
- ・事務局提案については、事務局に一任する。

【市民参画 G 報告】

- ・子ども向けパンフレットは A4 最大 8P で、子どもたちがこれから未来を創っていくために自分事として物事を捉えられるような、自分たちで考えられるようなパンフレットにしたい。最近は字を好まない子が多いので、写真や図などを入れて工夫をしながら、具体例を載せたものを作成していく。
- ・市民参画 G で作成したパンフレット案を委員会で図りながら、進めていく。
- ・提言の報告をパワーポイントなどで行うのであれば、発表の様子を動画にして YouTube に載せるなど、発信すればよいとの意見があった。
- ・サポーターにどんな方がいるのか、どんな意見をお持ちなのか、委員も把握していないので、生のサポーターの声を聴きたいし、お伝えもしたい。

【報告 G への委員意見等】

- ・子どもの参画の実践例等をパンフレットで取り上げてほしい。
 - ・学校での地域学習の内容は統一されているのか？
- 地域学習の目的は同じだが、計画は学校でそれぞれ違うため、やり方や内容は異なっている。
- 学校教育や高齢化問題などについて、子どもたちが正しい判断ができるような資料を作りたいと考えている。
- 課題は何か考えるところから子どもの学習につながっているため、地域学習で課題を与えることは少し目的と異なってくる。具体的な進め方については担当の生涯学習課地域教育係と相談しながら、進めていただきたい。

【報告全般への委員意見】

- ・協働が注目されがちだが自治と協働をセットで考えたほうが良い。
- ・事務局提案については、一任や賛同の声があったが、委員意見を提案できるようになった方がより良い。
- ・職員研修は委員やサポーターを交えたグループワークも視野に入れ組み立てる。
- ・自治と協働が割と進んでいる市町村では自治と協働の実践まちづくり表彰を行っている。メディアを振り向かせるような企画力のある内容を考えてもらいたい。
- ・他市町村を調査研究し、橋本市にあったものを作り上げていく作業を行う。
- ・スケジュールが過密。量よりも質を重視した内容にする。各 G でスケジュールの中心となるものを定め、それに他の事業を関連付けしながら進めてはどうか。また参加、計画、事業、運営のプロセスから自治と協働を考えていくのが大事。そ

の位置づけの中で、各 G 事業を少しずつ確実に進めていく。提言のひな型になるような各 G の事業や実践やイベントを行う。できなかったものは次期委員会に持ち越しする。

- ・岸和田市では協働に関するアニメーションを作っている。参考にしてほしい。

【まとめ】

- ・提言は提言書の提出と活動内容の報告会を同時開催する。演出等を委員会で考える。
- ・条例の検証を行うための指標の設定を今年度で作成する。指標は各 G で出した項目をまとめ、委員会全体として 1 つ評価シートを作成する。
- ・提言書作成のための部会を設置する。メンバーは正副委員長、各 G 長、各 G 1 名。

④ その他

- ・『はしもとの未来を考えるワークショップを開催します！』の紹介
- ・日程調整 次回会議は 9 月 6 日（火）13 時 30 分から

【委員提案】

- ・都市計画マスタープランのタウンミーティングなど、委員の学習につながる市庁内の事業については、事務局から報告いただきたいです。

4. 閉会

以上

【会議録署名欄】

委員長 堀内秀雄

【会議録署名欄】

委員 田村 亜美

【会議録署名欄】

委員 戸島 浩子